

(仮訳)

## プレス・リリース

2025年3月13日

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、監督の実効性を強化するための作業を進展させ、情報通信技術（以下「ICT」）リスク管理及びシンセティック・リスク・トランスファー（以下「SRT」）に関する分析作業を開始する。

- バーゼル委は、2023年の銀行を巡る混乱から得られた教訓を踏まえて、監督の実効性を強化するための作業を進展させる。
- ICTリスク管理に関連するグローバルな実務及び最近の動向を分析することに合意。
- ノンバンク金融仲介（以下「NBF I」）と銀行との相互関連性について、SRTに焦点を当てつつ、さらなる調査を行うことに合意。

バーゼル委は、2025年3月12-13日にバーチャル会合を開催し、様々な取組みについて議論した。

### 2023年の銀行を巡る混乱

バーゼル委は、2023年の銀行を巡る混乱から得られた[教訓](#)を踏まえて、監督の実効性を強化する取組みの一環として、監督当局の日々の業務を支援するための一連の実務的なツールを策定する作業について検討した。この作業には、流動性リスクと銀行勘定の金利リスク（IRRBB）の監督、銀行のビジネスモデルの持続可能性の評価、及び実効性のある監督上の判断の重要性が含まれる。バーゼル委は、2025年半ばまでに、この作業の成果についてアップデートを公表する予定である。

### ICT

オペレーショナル・レジリエンスの監督に関するより広範な作業の一環として、また、技術環境の変化や世界的な情報技術インシデントの増加を踏まえて、バーゼル委は、銀行のICTリスク管理に関する最近の動向やグローバルな実務を分析することに合意した。バーゼル委は、その結果をまとめた実務集を2026年に公表する予定である。

## **NBFI**

NBFI と銀行との相互関連性を評価するための進行中の作業の一環として、バーゼル委は、今後1年間にわたって SRT に関する詳細な調査を実施することに合意した。SRT は、銀行の信用リスクを NBFI に移転するために利用することができ、銀行によるリスク管理及び/又は所要資本の低減に役立つ。SRT は新しい金融商品ではないが、その利用は近年拡大し、取引構造も進化している。同調査では、SRT がもたらす便益とリスクをより適切に評価することを目指す。

## **バーゼルⅢの実施**

バーゼル委は、規制の整合性評価プログラム（Regulatory Consistency Assessment Programme）の一環として、トルコにおける安定調達比率（NSFR）及び大口エクスポージャーの枠組みの実施状況に関する審査報告書をレビューし、承認した。これらの報告書は来月公表される予定である。